

はなぞのまちどおりしょうてんがい

花園町通り商店街

(花園まちづくりプロジェクト協議会)

愛媛県松山市花園町

開発で東西商店街が連結し 街の魅力を継続的に促進



取組の背景

花園まちづくりプロジェクトで 新たなまちづくりがスタート

道路改変構想を立ちあげた当初は、空き店舗増加など多くの課題があったが、整備をきっかけに、2017年8月に東西2つの商店街が共同して「花園まちづくりプロジェクト協議会」を発足し、最初の取組として、景観整備された路上を活用したイベント「お城下マルシェ花園」を企画。本イベントは「EAT・MEET・SHARE」をコンセプトに、キラリと光るこだわり野菜などの作り手である県内生産者と、それを求めるさまざまな世代の消費者とを繋ぎ合わせ、輪を広げていく地域おこしに取り組み、2017年9月以降毎月第3日曜日の開催を継続中。継続的なマルシェの実施によって最大1万人/回程度の来場があるなど、松山のイベントとして定着した。

2018年9月・2019年10月には、地元のまちづくり会社や隣接する県内最大の商店街(銀天街、大街道)と連携し、コンセプトを「花」に統一したイベント「MATSUYAMA

DESIGN WEEK」を開催し、市内商店街の回遊性を高め、エリアとしての価値向上に取り組んだ。

景観整備によるリニューアルから約3年が経ち、毎月第3日曜日のお城下マルシェ花園や毎週土曜日の産直市、花園町ブライダル、俳句イベント、50m走などのさまざまな賑わいづくりで、「歩いて暮らせるまち松山」のシンボルロードとして定着してきている。



お城下マルシェ花園

取組の内容

花園プロジェクトから広域連携 GoTo商店街事業も活用

お城下マルシェ等の継続開催で認知度も向上したが、コロナ禍による自粛要請等の影響を受け、都市部と同様に市内もステイホームの風潮が高まった。市外からの観光客だけでなく市内住民の来街も減少し、商店街は危機的状況となり、飲食店・小売店を中心に打撃を受け、商店街・店舗の事業存続が危機的な状況であった。そこで、感染症対策と経済循環の共存のための取組として、商店街の事業継続・販売促進につながる地域密着イベントを実施する。

Go To商店街を活用し、2020年10月「花園みんなで創るPROJECT・まつやま花園日曜日」を開催。3密を避けた屋外中心の感染拡大防止策を徹底した地元商店街の店舗を中心に、松山市(松山圏域3市3町)地域と出店者の協働で、花園町通りを「情報発信の場」として

活用。歩道空間では花園テラス・産直・物産企画・屋台・キッチンカー・パフォーマンス等のさまざまな文化の発表・交流を行い、ファミリー・多世代交流の場として、みんなと一緒に楽しめる賑わいを創出し、来街者への心地よいおもてなしの空間・時間・仲間の提供を実現した。

2020年10月は約8,000人が花園町通りを訪れ、近隣の城山公園・市駅前商店街のエリアも含め地域密着



まつやま花園日曜日

事業として賑わった。感染症対策と経済循環の共存が可能な本事業の実施により、企画段階から地元商店街の店舗と協働することで、新しい街をつくるという機運

を醸成し、次世代の人材育成から、商店街の機能強化と外部との連携推進による持続可能な取組の推進を図った。

取組の成果

2年で2倍以上の来街者
県内外の出店希望は多数

目標としていた歩行者通行量は、取組前の2017年の2,710人/回程度と比べ2019年では6,430人/回程度へと増加。マルシェは物販に加えフラワーアレンジメント教室や各種製作ワークショップなど参加型のブースを

設け、ファミリー層の来街も増加するなど新規需要開拓に繋がった。

また、花園町通り沿線では、過去10年間減少を続けていた地価が上昇に転じたほか、1階部分の空き店舗がほぼなくなり、地元商店街へは県内外からテナント出店の問い合わせが寄せられ、地域経済の活性化にも好影響を与えた。

実施体制

花園まちづくりプロジェクト協議会の設立にあたり、東西の商店街の組合から役員を選出。東西が一緒になって盛り上げる機運と責任感が醸成され、一体となった運営体制が実現。花園みんなで創るプロジェクト等のイベントは、東西の商店街組合員のみならず

地元で有名なパン屋を中心とした飲食店舗・民間企業等、商店街の外部団体からも広く協力を募った。

松山圏域3市3町の広域連携として情報発信や特産品のPRなどを行うブースに行政機関も出店。また地元の大学・専門学校・高校といった教育機関や地元プロスポーツチームによるイベント、NPO法人やまちづくり会社の協力等、産官学民が連携体制を構築した。

キーパーソンからのコメント

花園みんなで創るプロジェクト・商店街の機能強化と外部連携推進で笑顔に

リニューアルから3年、さらに活性化のため2019年地域密着企画をはじめました。しかしコロナ禍でイベントをするべきなのか何度も検討し企画決定。花園が目指すのは、「賑わいの創出構想・花園から情報発信基地」です。

まず取り組んだのは①地元役員、店舗会、ボランティアと一体感のあるチーム花園づくり②地域・団体への協働依頼③アクションプランの推進調整

④出店調整プログラム構成他ですが、最も重要なのは熱意です。

イベント開催や人をたくさん集めることが目的ではなく、地元店舗の事業推進のために何ができるか、前向きに課題に取り組み50年後の花園商店街の次世代の夢に向かいpassion mission actionです。実行委員会チーム花園のみんなに感謝します。



左側 花園町東通り商店街組合理事長 重松建宏
右側 花園町西通り商店街振興組合理事長 矢野宏道

商店街の概要

「花園町通り」は、市内最大の40mの道路幅を有し、城山公園と松山市駅を南北で結ぶ商店街。松山市の中心部を一円する路面電車や松山空港からのリムジンバス等により、市内住民・観光客を問わず利便性の高い場所である。隣接する城山公園は、かつて多数のスポーツ施設が立地し賑わったが、施設の郊外移転や大型ショッピングモールの立地で、通行量の減少や空き店舗の増加等、商業活性化や安全・景観面で課題があった。2017年に松山市が実施した道路景観整備を機に東西商店街組合(花園町東通り商店街組合・花園町西通り商店街振興組合)が連携し取組を行っている。

所在地 愛媛県松山市花園町
人口 約50万人(愛媛県松山市)
電話 089-933-4375
FAX 089-933-4375

URL <https://hanazonodori.com>
会員数 81名
店舗数 81店舗(小売業10店、飲食業23店、サービス業13店、その他35店)

商店街の類型 複合型
主な客層 サラリーマン、
家族連れ(親子)
／40歳代、30歳代